


卓話 変化する社会に対応して変わる
高等教育とこれからの学校選び

株式会社 リクルートマーケティングパートナーズ
まなび事業統括本部 教育機関広報統括部
九州グループ 遠藤 紀彦様



子どもたちが歩むこれからの社会は？
これからの社会のキーワード

- 「少子化・人口減少」
長崎県の18歳人口は10年で16%減少
- 「グローバル化」
中国のくしやみによって日本が風邪を引く
- 「AI化スマート社会」
AIにより、生産性が向上！仕事が奪われる？

長崎県 今後の18歳人口の予測

- ✓長崎市の人口も2015年約43万人から2030年約37.5万人と5.5万人減少(12%)
- ✓65歳以上の割合も、2030年には全国平均より5.5ポイント高い36.7%に
- ✓今後10年の間で長崎県の18歳人口は14010人→11795人へと16%減少する
- ✓長崎県の18歳人口減少率は九州では最も高い

Society5.0 超スマート社会 日本の未来の姿

- ・ドローン宅配
- ・AIスピーカー
- ・スマート農業
- ・無人走行バス
- ・AI家電
- ・遠隔診療
- ・会計クラウド

AIやロボットに代替されない仕事とは

- 決まったパターンや処理方法で、対処すればよい仕事はAIやロボットに取って代わられる
- 創造性、協調性が必要な仕事、非定型な業務は将来も人が担う
- 仕事の変化に対応していく必要がある

必要とされる資質・能力の変化

20世紀社会 工業化社会	21世紀社会 知識基盤社会
知識・技能の「習得」と「再生」 【情報処理力】 (早く効率的に答えを求めらる力) 一つの正解 同質化社会で積み上げるキャリア 同一文化の中での暗黙の理解	知識・技能の「活用」 【情報編集力・創造力】 (思考力・判断力・表現力) 複数の読解 自分のキャリアを切り拓く力 異文化の中での多様性の許容

変化が激しい、予測できない社会において、必要とされる能力は？
主体的・能動的に「生涯学び続ける人」の育成

- 子どもたちが歩む、これからの社会は？
- 求められる人物に必要な力と高大接続改革
- 学校選びのポイント

10月にお祝いを迎えられる方



司会/中村哲也
写真撮影/鬼塚洋一

創立/昭和49年4月30日
承認/昭和49年5月22日
例会日/毎週水曜日 12:30~13:30
例会場/長崎新聞文化ホール「アストピア」

事務局/長崎市目覚町8-11-301
TEL843-6635/FAX845-9411
URL http://nerotary.org/

	全員総数	Home Club 出席数	Home Club 欠席数	Make-up	免除者	修正出席率	出席率
9月17日	41	21	16	4		67.6	
10月2日	41	32	7		2		82.1

月間出席率	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
前年度	76.8	79	77.7	79.8	71.7	71.7	79.7	75.1	73.6	78.2	74.4	77.3
本年度	82.1	81.3	81.3									

これからの社会で求められる人物に必要な力と
高大接続改革

日本でも学力の3要素が見直された(学校教育法第30条2項)

旧定義	新しい定義
1 基礎的・基本的な知識技能の習得	十分な知識・技能
2 知識技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力	それらを活用して答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力
3 主体的に学習する態度	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

これからの時代を「生きる力」を教育で確実に養成する

高大接続改革の考え方



① 高校における改革のポイント

1. 教育課程の見直し 高等学校学習指導要領の改訂(平成34年度(2022年度)より)
 - ・新しい時代に必要な資力・能力の育成の視点による必修科目の見直し
 - ⇒ 「歴史総合」「地理総合」「公民」「数学I」「総合的な学習の時間」の設置
2. 学習・指導方法の改善と教員の振舞いの向上
 - ・受け身の学習→課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学習(探究型学習の推進)
 - ⇒ アクティブラーニングの視点からの授業改善 → 「主体的・対話的・深い学び」へ
 - ・教員の選考、採用・研修の各段階を通じた抜本的改善
3. 多面的な評価の充実
 - ・「学力の3要素」を育成するための学習評価の在り方の見直し、指導記録・評価の改善
 - ⇒ 主体的な学習態度、多様な学習活動の成果をより適切に評価するため「評価と学習成果の連携」の成果を成果
4. 多様な測定ツールとしての「高校生のための学びの基礎診断」の導入
 - ・高校段階における基礎学力の特定と習得と、高校生の学習目的の喚起、FOCALサイクルの構築

② 大学教育改革のポイント

1. 「三つの方針」の策定に基づく大学教育の進展
 - ・各大学において育成を目指す人材像やそのための具体的な教育活動について明確化、可視化
 - 2016年3月1日 学習指導要領改訂、2017年度入試より実施
 - 「卒業学位・学位取得の方針(メタプロ・ポリシー)」
 - 「卒業後継続的・実践的方針(キャリア・ポリシー)」
 - 「入学受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」
 - (三つの方針の策定・運用に関する方針(2016年3月))
 - ・積極的な情報発信 → 大学関係者だけでなく、高校教員、保護者、受験生といったステークホルダーにも理解しやすい文書提供があること
2. 評価制度の改革(内閣府保証システムの構築) → 教育の質保証
 - ・7年に一度受け入れられる評価制度を、2016年度から改定

③ 大学入学者選抜の改革のポイント

- 2021年度入試(現高校2年生)から
- ▶ センター入試廃止、大学入学共通テストの開始
 - ▶ 大学の個別選抜においても新しい学力に基づく選抜制度の導入

大学入学者選抜の改革 共通テストの改革: 「大学入学共通テスト」の開始

令和3年に導入 ⇒ ポイントは「記述式」と「英語4技能」

現行	令和2年度(2021年度入試)~
現行	記述式問題の導入
英一問題のみ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 英語: 数学で導入→いずれも問題量増減 60~120文字程度の短問題 ◆ 数学: 数式・問題解決の力を幅広く評価 著作例、出題、採点は大学入試センター 採点には「採点委員会」を運用
英語「読む」のみ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 英語の外部検定試験を活用して4技能を評価 ◆ 大学入試センターが「認定試験」を認定 ◆ 高校3年生の間に自宅で受験可能 ◆ 各大学の判断で活用 ◆ 各大学が認定した試験科目の負担軽減を定める ◆ 平成35(2023)年度までは、共通テストの英語は併用

大学入学者選抜の改革 大学個別の入学者選抜の区分について

入学者受け入れ方針に基づき、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価

AO入試	推薦入試	一般入試
<ul style="list-style-type: none"> 総合型選抜 推薦型選抜 	<ul style="list-style-type: none"> 学校推薦型選抜 	<ul style="list-style-type: none"> 一般選抜

※ 推薦型選抜は、学力の3要素を多面的・総合的に評価する必要がある

約30年間で変わった大学の状況(保護者の時代との比較)

	1990年	2018年	90年比
18歳人口	約205万人	約120万人	4割減
大学数	507校	782校	約1.5倍
大学進学率	24.6%	53.3%	約2倍
大学の学位に付与する専攻分野の数の数	29種類	約700種類	約24倍
私立大学定員割合		45% (専任教員も同様)	全入時代が間近に

学校選択を難しくしている学部・学科の多様化

子ども学部 食料環境政策学部 シティライフ学部

不動産学部 現代ライフ学部 21世紀アジア学部

グローバルメディアスタディーズ学部 世界遺産学部 アジア太平洋学部

中退の現状

大学・短大・専門学校学生の
中退者数 年間約8万人

- 1位 勉強に興味や関心をもてなかった
- 2位 学校生活に適應できなかった
- 3位 単位が取れず卒業できそうになかった

学校選択の際に大切にポイント(軸)を持つ

自分の「ものさし」を持ち、学校を見ることが重要

カリキュラム・学び方 取得できる資格

学校・学部の規模 キャンパス・周辺環境

就職先・就職サポート 育てたい学生像

学費・奨学金

学校を比較する～教養の分野～

	A大 教養学部	B大 国際教養学部
学費	入学金 10万円 学費(12ヶ月) 169万3000円	入学金 10万円 学費(12ヶ月) 159万3000円
学部	● 全ての教養の必修プログラムがある ● 履修だけでなく、資格を通して論文作成やディスカッションの経験を身につける	● 授業の共通基盤は英語 ● ディスカッションに重点を置いた特色形式の授業
定員	69人	150人
教員	● 専任教員 ● 専任助教 ● 日本語教員	● 専任教員 ● 専任助教 ● 国際教員
国際化	● 2年の終わりに、31の専任分野の中で海外を卒業 ● 少人数制で教員との距離が近い	● 世界50カ国の地域から学生が集まっている ● 2年後半より1年間の海外研修が必須

本日のメニュー

